

Economic Indicators

発表日:2022年2月25日(金)

主要経済指標予定(2022年2月28日~3月4日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム(Tel:03-5221-4525)

(2月28日~3月4日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果	
2月28日 (月)	8:50 1月鉱工業指数・速報 生産(前月比) (前年比)	▲0.8% ▲0.4%	▲0.7% 0.0%	▲3.1%~+2.0% ▲3.2%~+3.0%	▲1.0% +2.7%	
	8:50 1月商業動態統計・速報 小売業販売額(前年比)	+1.7%	+1.1%	▲0.7%~+3.9%	+1.2%	
	14:00 1月住宅着工統計 新設住宅着工戸数(前年比) (季調値年率)	+0.5% 83.1万戸	+2.5% 83.4万戸	+0.1%~+6.1% 74.0万戸~85.8万戸	+4.2% 83.8万戸	
	14:00 12月サービス産業動向調査 売上高(前年比)	—	—	—	+1.2%	
	3月1日 (火)	14:00 1月新車販売台数 乗用車(前年比) 軽乗用車(前年比)	— —	— —	— —	▲12.7% ▲22.1%
3月2日 (水)		8:50 1月マネタリーベース (前年比)	—	—	—	+8.4%
		8:50 10-12月期法人企業統計 売上高(前年比) 経常利益(前年比) 設備投資(除ソフトウェア)(前年比)	— — — —	— — — —	— — — —	+4.6% +35.1% +2.2%
	3月3日 (木)	14:00 1月消費動向調査 消費者態度指数(一般世帯、季調値)	—	—	—	36.7
		3月4日 (金)	8:30 1月労働力調査 完全失業率	2.8%	2.7%	2.6%~2.8%
8:30 1月一般職業紹介状況 有効求人倍率	1.17倍		1.15倍	1.14倍~1.18倍	1.16倍	

1月鉱工業生産指数 当社予想：前月比▲0.8% 中央値：同▲0.7%

1月の鉱工業は、感染状況の悪化や長引く半導体不足等を背景に、前月比で▲0.8%の低下を予想する。先行きについては、感染状況の悪化を背景とした不透明感の高まりや工場稼働への悪影響が予想されることなどから、生産の回復ペースは緩慢なものになることが見込まれる。

(主任エコノミスト：小池 理人)

1月小売業販売額 当社予想：前年比+1.7% 中央値：同+1.1%

1月の小売業販売額は、感染再拡大に伴う外出手控えを背景とした百貨店の販売額の減少や、部品供給不足による自動車販売の減少などが主な減少要因となり、前月比で▲1.3%の減少を予想する。先行きについては、感染状況の悪化継続によってサービス消費を中心に下押し圧力がかかることから、個人消費は低水準での推移が続くだろう。

(主任エコノミスト：小池 理人)

1月新設住宅着工戸数 当社予想：前年比+0.5% 中央値：同+2.5%

1月の新設住宅着工戸数は、前年比+0.5%、季節調整値（年率換算）で83.1万戸と予想する。昨年度（令和3年度）の住宅支援制度が9月に一旦終了したことで3カ月前の受注動向が下振れていたことから、戸建てを中心に着工数は減速が続くと予想する。先行きについては、オミクロン株の感染急拡大によって、12月以降は先行き不透明感の高まりによる購入の手控えや住宅投資意欲の低下があったと考えられ、当面は住宅着工数も弱含むとみられる。

(副主任エコノミスト：大柴 千智)

1月完全失業率／有効求人倍率 当社予想：2.8%／1.17倍 中央値：2.7%／1.15倍

失業率は前月から悪化を予想。新型コロナウイルス感染者数の急増により1月の景気は下押しされたとみられ、雇用にも悪影響が出た可能性が高い。

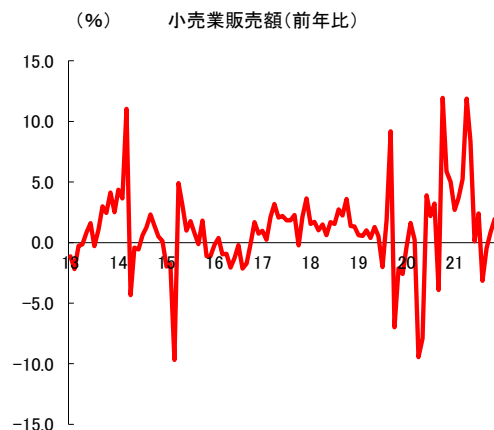
(経済調査部長・首席エコノミスト：新家 義貴)

図表1



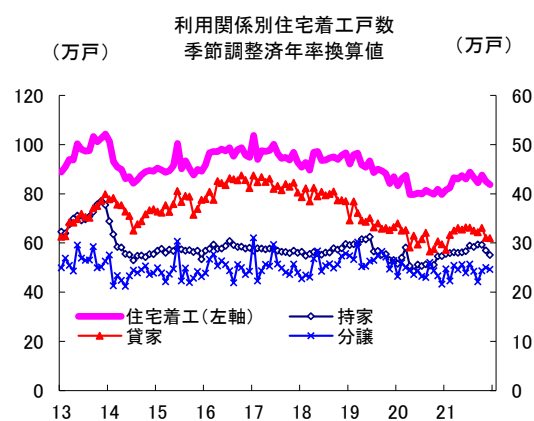
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

図表2



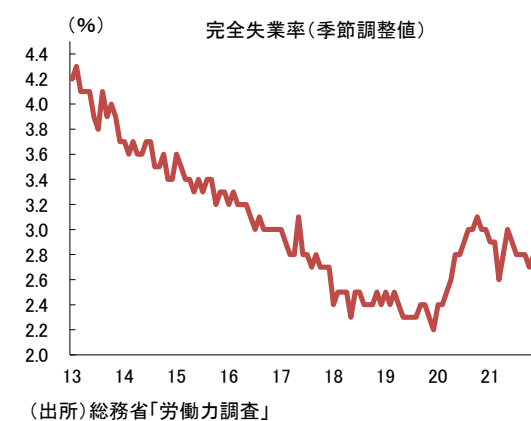
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

図表3



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

図表4



(出所) 総務省「労働力調査」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。